

平成25年度 第3回 市民と市長の対話集会 市長と語ろう!ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成25年(2013年)5月21日(火)
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 松が丘公民館 集会室
- 3 テーマ 伊勢山地区・東中原地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者17名 傍聴者13名



松が丘公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんばんは。夜分にも関わらず、対話集会にお集まりいただき、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

地域の皆様の御意見を伺って市政に反映したいという思いを強く持ち、このほっとミーティングをはじめさせていただきました。東日本大震災後の平成23年度は、市民の皆様の安心安全を考えるため、防災対策をテーマに4回地域に伺わせていただきました。平成24年度からは、各地域が抱える課題に地域の皆様と一緒に取り組むため、地域のまちづくりをテーマに地区自治会連合会単位にて開催させていただいています。平成24年度に引き続き、今年度は城島地区と富士見地区に伺い、この伊勢山地区・東中原地区での開催が3回目のほっとミーティングです。

平塚市には27の地区自治会連合会があります。それぞれの地域に人材や歴史、文化、環境などの素晴らしさが豊富にあります。私は、地域の輝きが地域の集合体である平塚市を発展させると信じています。

今日の御質問の中で、明確な数字などをお答えできないこともあるかと思えます。その際は、担当が持ち帰って確認し、後日回答させていただきます。今日は皆様の率直な御意見を聞かせてください。よろしく願いいたします。

6 主な対話集会の内容

① 大雨による被害について

【参加者】

この地域に27年間住んでいます。この数年、中原3丁目の地域では、集中豪雨による被害が甚大です。道路は冠水し、家の土台まで水に浸かってしまいます。水浸しになった自動車のバッテリーは壊れ、床下浸水を何度も経験しています。4月6日から7日にかけて降った大雨にも、大変怖い思いをしました。夜中外に出ると、道路は50センチメートルくらい冠水していました。今回は夜中の被害でしたが、時間帯によっては子どもに被害が及ぶ可能性もあります。これまで、私は市役所の下水道整備課や災害対策課などを訪ねて相談してきました。下水道整備課からはお手紙をいただき、排水管の大きさや電動ポンプによる排水の課題、渋田川河床の浚渫工事の必要性などが分かりました。しかし、問題は解決されません。もうすぐ梅雨の時期がきます。自然が相手では手が出ないということでしょうか。短期的な対策と長期的な対策について、計画内容と期日をはっきり示してほしいです。

【市長】

4月6日から7日にかけて、爆弾低気圧による集中豪雨がありました。金目川の堤防が崩れるなど、市内各地域で被害がありました。土屋地区では1時間に91ミリメートルの大雨が降りました。これほどの大雨が4月に降ることも、地球環境の変化かと思えます。現在、平塚市では、1時間に50ミリメートル降る雨に対応できる貯留管や下水道の対策を進めています。5年ほど前に、競輪場の周りも冠水してしまいました。そこで、大きな貯留管を地下に埋め、雨水を排水する対策を行いました。今年、平塚市全体の下水道計画を立て、大雨による被害が大きい地域への対応も考えていきます。

4月6日から7日の大雨について、この中原3丁目の被害報告を早急に受けました。報告によると、大雨によって渋田川の水位が上がり、雨水を側溝から渋田川に排水できなくなったことが原因でした。早速、地域の皆様の安心安全を守るため、大雨を把握して対応することと原因を解決することを指示しました。雨の降り方を把握することは難しいことですが、アメダスなどのデータを利用して可能な対応を行っていきたくと考えます。渋田川河床の浚渫工事も必要です。河川を担当する神奈川県には、早急な工事を要望していきます。地域の皆様の安心安全が、目に見えてくる取り組みや対策が必要です。そのために、

神奈川県との連携や予算の課題も含め、長期的、短期的な対応について、担当課にて検討させていただきます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

日頃より、本市の下水道事業に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

4月6日の深夜から4月7日の未明にかけての大雨により、中原付近では時間雨量40ミリメートルの激しい雨を、また、渋田川上流の伊勢原市では時間雨量80ミリメートルの猛烈な雨を記録し、渋田川美里橋では、はん濫注意水位を超える河川水位となりました。その為、雨水が排除されず、冠水が生じたと考えています。

これに対する改善策として、河川管理者である神奈川県に対して、河川未整備改修部の拡幅整備や断面を阻害している土砂の撤去を行うことを要望いたしました。

本市下水道整備課では、下水道計画を再検討し、雨水貯留浸透施設の設置や水門の改修などの対策を実施してまいります。

また、6月末には、雨水管渠の浚渫や河川水位を示す量水標の設置、住民の皆様にご利用していただくための青少年広場への土のうの設置などを行ってまいります。

なお、上記対応については、伊勢山自治会連合会や東中原連合自治会にお伝えし、了解を得ました。

住民の皆様には、雨水の地下への浸透を行う宅内浸透柵や雨水貯留タンクの設置など、各家庭での雨水の流出抑制に努めていただければと考えます。

（事務担当は下水道整備課計画担当）

渋田川については、河川管理者である神奈川県平塚土木事務所へ御要望をお伝えし、今後の対策や計画を問い合わせたところ、渋田川は鈴川及び金目川に合流するため、下流域の未整備箇所を優先して進めていくとのことでした。ただし、渋田川で著しく水流を阻害するような土砂の堆積がある場合には、渋田川の浚渫工事を行うとのことでした。

流域住民の皆様には、御心配と御不便をおかけしておりますが、御理解くださるようお願いいたします。

（事務担当は土木総務課国県事業推進担当）

4月6日(土)から7日(日)にかけての大雨を踏まえて、本市災害対策課の職員体制や情報配信の体制を見直し、強化しました。台風や局地的大雨による河川の氾濫等により、人命の保護、その他災害の拡大防止等を図るため、特に必要があると認められるときは、危険地域の居住者等に対して避難実施のための必要な情報を迅速に配信してまいります。

なお、本市ホームページに掲示している「ひらつか防災気象ウェブ」では、注意報・警報情報のほか、雨量観測情報、水位観測情報等、様々な気象情報を配信しています。今後、配信内容の充実や改善等も図ってまいりますので、日頃から御覧いただき、防災への備えに役立てていただくようお願いいたします。

(参考) ひらつか防災気象ウェブ

<http://hiratsukacity.bosai.info/pinpoint/index.html>

(事務担当は災害対策課災害対策担当)

【参加者】

4月6日の夜、大雨が降る中、市の職員の方に来てもらいました。マンホールを開けたところ、溜まった水が勢いよく流れていきました。污水管のマンホールを開けたのではないかと思いました。緊急対応のために、污水管が利用できるのであれば、大雨による浸水被害の対策になるのではないのでしょうか。

【市長】

本来、雨水と污水は分けて処理する必要があります。環境のことを考えると、污水を河川に流すことはできません。污水管を利用することは難しいことです。やはり、本来の雨水管にて、溜まった水をしっかりと排水できる体制を整えることが必要です。

② 防災・防犯・安心安全について

【参加者】

今年度から、伊勢山自治会連合会では自主防災組織を再編し、私は責任者を担っています。毎年2回の訓練などを行っていますが、この自主防災組織をさらに実効性のある組織に発展させたいと思っています。行政からの援助や訓練、組織の運営に関わるアドバイスについて聞きたい。

【市長】

自主防災組織の活動を本当にありがたく思います。防災対策には、自助、共助、公助が必要といわれます。行政が行う公助、避難場所や備蓄、耐震への補助などは、責任を持って進めていきます。自分で自分の命を守る自助のための備えは、日頃から行っていただくようお願いいたします。そして、共助において、自主防災組織はとても大切です。阪神・淡路大震災の時、多くの人が地域の住民によって助けられました。地域のつながりの強さが地域を助けます。この伊勢山地区、東中原地区はつながりが強い地域です。ぜひ、自主防災組織を中心とする、地域のつながりづくりに御尽力いただくようお願いいたします。

また、この4月1日から、防災危機管理部は1課から2課になりました。災害対策に特化する災害対策課と防犯に対応する危機管理課の2課です。自主防災組織の運営に関わることや資機材に対する補助、リーダーの育成、組織の構成方法、訓練などは、災害対策課にて対応させていただきますので、御相談くださるようお願いいたします。

【参加者】

東日本大震災から約2年間が経った今、行政が考える防災対策について聞きたい。

【市長】

お示しをしている地域防災計画では、行政は地域の防災対策への応援を力強く行おうと考えています。また、東日本大震災で一番脅威だったことは津波です。県が想定する地震による津波において、平塚市には最大で、地震発生約19分後に6.9メートルの津波が到達すると予想されています。そこで、海に近い南側の地域では、津波からの避難場所として、約70か所の津波避難ビルを用意しました。他には、避難場所の備蓄や情報の伝達手段を整備させていただきました。今後は川を溯る津波への対策も考えていきます。

【参加者】

地域のまちづくりにおいて、交通事故のない安全な地域になってほしいと思

います。公民館の南側の道路は、路線バスが運行される道幅もかなり狭い道路です。交通量が非常に多い道路ですが、歩道もなくとても危険です。

【市長】

地域の皆様や警察、交通安全協会の御協力により、昨年、平塚市では交通事故による死亡者はいませんでした。人口が約26万人規模の自治体においては全国でも珍しいことです。しかし、決して交通事故がないわけではありません。特に、高齢者の方が巻き込まれる事故が多いそうです。また、大原地区でこのほっとミーティングを開催した時には、学生の自転車のマナーに関する御意見もいただきました。これからも、地域や警察、交通安全協会と一体になって対策に取り組んでいきます。

銀河大橋から国道129号までの湘南新道は、4車線化が完了しました。今後、西に向かって大磯町までつながる都市計画道路です。現在、県道606号（大島明石線）、通称パイロット線までの用地買収を進めています。その後、この地域までの4車線化が行われる計画です。御意見のとおり、バスや自動車の交通が多くて危険ですが、早急に道幅を広げることは難しい現状です。都市計画道路の完成には長い時間がかかりますが、地域の自治会と市、県、国が一体となって安全対策を進めていきたいと考えます。

【参加者】

旧消防署大野出張所の跡地には、交番を設置してほしいと思います。地域では、昨日も空き巣の被害があったそうです。現在、中原地区にある交番がこの地域を担当しているようですが、地域には約2,200世帯が暮らしています。人口が多いこの地域の安全のために、交番の設置を検討してほしいです。

【市長】

交番設置のお話は、大原地区のほっとミーティングでもいただきました。まさに、地域の皆様の防犯に対する意識の表れです。交番設置の御要望は、地区自治会連合会からもいただいております。警察にも伝えてあります。しかし、交番は一定範囲に1か所という基準があるようで、設置が難しいことは地域の皆様にもお答えさせていただきました。しかし、御意見のとおり、世帯数が多いこの地域の安全を守りきれぬのかという御意見もあります。再度、御意見を担当課には伝えさせていただきます。最近振り込め詐欺が増えているそうです。実は今日も、市の福祉課を名乗って口座番号を聞き出そうとする電話の報告を受けました。市民の皆様の安心安全を守るため、犯罪を抑止する注意喚起などを、警察と連携して行っていきたいと考えます。

③ 地域の活性化や情報について

【参加者】

5年から10年後の平塚市や地域の活性化のために、これから必要なまちづくりについて、どのように考えていますか。

【市長】

今必要なまちづくりについては、それぞれの地域に合ったまちづくりが一番良いと考えています。例えば、これまで使用目的を指示させていただきながら、各地域にお出ししてきた予算があります。今後は、それぞれの地域で美化やごみ、体育振興など活動の目的を指定せず、地域の活動に応じたお金の使い道を決めていただけるような交付の方法を目指していきたいと考えています。地域で課題を捉えて地域で解決する体制が、これからのまちを輝かせ、活性化させる方法になると考えます。

例えば、現在、市内11の地域でちいき情報局（平塚市内の地域の情報を見ることができる地域向けの交流・情報提供サービスで、コミュニティの活性化を図るとともに、地域の各種団体の連携を強化するためのホームページ）を開設していただいています。公民館や地域の各種団体が行うイベントの情報や活動の様子を地域主体で発信しています。これも、地域が輝く取り組みの一つです。

また、広報ひらつかについても、市民の皆様に市の情報を知っていただくため、各戸配布にさせていただきました。

【参加者】

地域の住民にとって、市や地域の情報は何より大切です。また、市からの情報は、自治会を経由して発信されるものが多くあります。しかし、自治会に加入していない人もいます。公民館だよりや自治会便り、自治会を通して伝わる市の情報は、自治会に加入していない人には届きません。確かに、ホームページによる情報も大切です。しかし、地域で行われる避難訓練などの情報を必要とするのは地域に住む高齢者です。ホームページを開いて情報を得ることができない人も多くいます。住民全体に届く情報が必要です。

【市長】

現在、自治会の加入率は約76パーセントです。なんとかして加入者を増やしたいと考えています。しかし、特に若い世代を中心に、自治会にメリットを感じないという御意見もあります。これからも、行政の情報やサービスなどを受けやすいことなど、自治会のメリットを打ち出しながら、加入を促してい

たいと考えます。

平塚市では、防災に関わる情報をツイッターなどでも発信しています。ツイッターやホームページなどは御意見のとおり、高齢者の方にとっては利用が難しいものです。高齢者の方に必要な情報などの伝達方法については、今後も課題として捉えていきたいと考えます。

【参加者】

落合市長は公民館を中心とした地域のまちづくりを目指していると伺いました。今後、地域にとって公民館はどのような役割を果たしていくのでしょうか。また、市内の新しい公民館はサロンのような機能も果たしています。地域住民が立ち寄ってお茶を飲みながら話ができる施設がこの伊勢山地区や東中原地区にもできれば、地域住民のふれあいの場になると思います。

【市長】

私も公民館主事を経験しました。平塚市は全国でも珍しく、概ね小学校区に公的な公民館が1館ずつあります。これまで、公民館は大人のための社会教育や生涯学習の場でした。社会教育法も改正される中、これかからの公民館は地域づくりにも活用されるものになります。私も、公民館から地域の情報が発信され、地域づくりを考える場所になってほしいと考えています。公民館が改修される時には、地域の皆様が話し合いを行えるスペースなどを考えていきたいと思っています。

④ 福祉・子育てについて

【参加者】

少子高齢化社会を迎えました。若い世代の人が子どもを育てやすい環境が必要です。

【市長】

現代は、一言で少子高齢化の時代です。少子高齢化に対応するまちづくりが大きなテーマです。平塚市の高齢化率は約23パーセントで、約4人に1人が高齢者の方です。団塊の世代の方が65歳を迎えた時には、30パーセントを超える見込みです。また、今合計特殊出生率（女性が出産可能な年齢を15歳から49歳までと規定し、それぞれの出生率を出し、足し合わせることで、人口構成の偏りを排除し、一人の女性が一生に産む子どもの数）は約1.2です。2.08を下回ると日本国民は減ります。

少子化は日本全国の自治体にとっても、避けて通ることのできない課題です。今、子どもを保育園に預けて働くお母さんは増えています。そこで課題になることが待機児童です。平塚市では、2年前に一度待機児童が0人になりました。また、駅の近くの平塚保育園では、病気が治った子どもを預けることができる病後児保育も取り入れていただけました。しかし、待機児童の課題は潜在的なもので、次第に増えていきます。今年度当初の待機児童数は約30人です。保育機能を高める施策が求められる中、これからは幼稚園における子育て支援の方法や認可無認可の基準なども、自治体の裁量の中で行えるように考えていきたいと思えます。少子化対策のために、子育て環境の現状を把握し、保育機能に対する予算のかけ方などを考えています。

【参加者】

全国的に生活保護を受給する人が増え、受給者の増加に伴って不正受給などの問題も起きているようです。

【市長】

生活保護の支給額は毎年増えています。不正受給などもあり、国の基準が変わるようです。憲法に保障される最低限の生活を守るために、生活保護を受給される方が増えていることも事実です。不正受給が起こらないように厳正な審査を行いながら、平塚市は国の制度に対する役割を果たします。

【参加者】

中学校給食について、家庭からの弁当と業者弁当販売方式の併用という、今回の平塚市の決定に賛成です。小学校においては、食べ残しの課題があります。

さらに、給食費の未納の課題もあります。この課題が解決されていない状態での中学校給食の実施は難しいと思います。また、お母さんにとっては大変だと思いますが、中学校と高校の6年間に親から作ってもらったお弁当は子どもの心に刻まれるはずで、手作りのお弁当に愛情をかけることも、子育てには必要だと思います。

【市長】

学校給食について、小学校は完全給食です。話題になっているのが中学校の給食です。両親が働いているため、中学校でも給食を実施してほしいという御意見があります。確かに、子どもの栄養を考えると、給食の必要性も感じます。しかし、御意見のとおり、お弁当を作ってもらうことの良さもあります。また、財政的な課題もあり、小学校給食に関わる年間の経費は約8億円です。中学校給食を実施する場合、施設なども含めて約50億円から60億円の経費がかかり、ランニングコストも年間約4億円から5億円かかる見込みです。2年間検討した結果、子どもへの栄養も考え、お弁当を提供する方法を考えていくことになりました。

⑤ 環境について

【参加者】

地域には、野良猫や野良犬などの課題があります。対策について聞きたい。

【市長】

野良猫については、NPO（民間非営利団体）をはじめ、不妊手術をする取り組みを進めており、総合公園などでは様々な活動をしていただいています。この取り組みには、行政もしっかりと応援を続けていきます。また、野良犬については、狂犬病などの危険もあります。犬の登録をした家庭には通知を出して対応しています。土屋地区には、神奈川県動物保護センターもあるので、連携を図っていきたいと考えます。

【参加者】

市営東中原住宅の自治会長をしています。1号棟から16号棟まである住宅は老朽化が進んでいます。住民も高齢者ばかりになってきました。若い世代の入居が増えなければ、地域のコミュニティが活性化しません。若い世代が入居できる基準や魅力付けが必要です。

【市長】

市営住宅だけでなく、横内地区の県営住宅においても、高齢化は顕著です。横内団地の高齢化率は60パーセントを超えているそうです。公的な住宅のあり方として、若い世代の人が魅力を感じて住みたいと思っていただけるように検討しています。確かに、所得が高い方の入居は難しいことですが、利便性や魅力を感じてもらえるような住宅になることは必要です。また、新しい建物を次々に建てられる時代ではありません。今ある施設の長寿命化という観点からの検討もはじめています。

7 市長によるまとめ

今日は本当にありがとうございました。私の回答の中で、具体的なことをお示しできなかったこともあるかと思います。そのような点は、担当部署と検討して皆様に御心配のないよう進めていきたいと思っています。はじめに御意見をいただいた排水の課題などは、持ち帰って具体的な対応を考えさせていただきます。

この地域の皆様が熱心にまちづくりに取り組んでいただいていることを本当にありがたく思いました。地域を愛する皆様の御意見や御希望には真摯に対応していきたいと考えます。実は、高齢者の方の見守り対策として、このほっとミーティングから生まれた施策があります。高齢者在宅時緊急通報システムやはいかいSOS見守り携帯、お話見守り歩数計はほっとミーティングに参加していただいた御意見から反映させていただきました。実際に反映された具体的なものです。今日皆様からいただいた御意見も、私の中でしっかりと噛み砕いて市政への反映を考えていきます。

本日は熱心な思いを伝えていただいたことに感謝申し上げるとともに、これからも皆様のお力で地域を盛り上げていただくようお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 25件（参加者 15件 傍聴者 10件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	0名	4名	5名	8名	8名	0名

性別

男性	12名
女性	10名
回答なし	3名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	4名	5名	9名
ポスターやチラシ	1名	1名	2名
町内会など地域から	9名	4名	13名
市ホームページ	0名	0名	0名
その他	1名	0名	1名
回答なし	0名	0名	0名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	6名	1名	7名
まあよかった	9名	7名	16名
どちらともいえない	0名	1名	1名
あまりよくなかった	0名	0名	0名
よくなかった	0名	0名	0名
回答なし	0名	1名	1名

質問3 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

- 回答**
- ・具体的な話を聞きたかった。
 - ・重点的な回答を聞きたかった。

質問4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	3名
まあ伝わった	9名
どちらともいえない	1名
あまり伝わらなかった	1名
伝わらなかった	0名
回答なし	1名

質問5 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

- 回答**
- ・なし

質問6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

- 回答**
- ・テーマを絞った方が良い。
 - ・地域の課題や将来の展望を聞くことができて良かった。
 - ・今後の地域に対する市政に期待したい。
 - ・優しく、分かりやすいお話に好感を持ってました。
 - ・ぜひ、次回も参加したい。
 - ・解決の糸口を提案していただけた。
 - ・落合市長に会えて、話を聞いて良かった。
 - ・初めての参加でしたが、良い対話集会です。
 - ・冠水への対応の参考にしてほしいです。
 - ・市長の生の声が聞いて良かった。